

## 第4回放送番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成24年9月5日 18時30分
2. 開催場所 FMぎんが 2階会議室
3. 委員の出席  
委員総数 8名  
出席委員数 7名  
出席委員の氏名 井手聡委員長 中間隆志委員 吉見満雄委員 下吉秀知委員  
藤崎剛委員 加藤俊文委員 牧眞弘委員  
放送事業者側出席者 中崎宗治代表取締役 中崎啓文局長 濱田英作 上酔尾佳大

### 4. 議題 番組の聴取と意見交換

### 5. 議事の概要

平日月曜日から金曜日、午後1時から午後3時に放送している番組『DONDONブレイクさつま』の中から、月曜日のコーナー「かごんま弁クイズ」と火曜日のコーナー「ゆったり、まったり、市内お風呂めぐりの旅」を審議委員に聴取していただき、番組に対する意見を出していただいた。

### 6. 審議内容

(◎＝放送事業者側出席者 ○＝番組審議委員出席者)

#### ◎中崎取締役

FMぎんがも3ヶ月経ちましたが、まだ様々なことを一気に改善するまでには至らず、ひとつひとつ進めているという状況です。番組の内容が良くなったとの多くの声をいただいていますので、今後リスナーが増えてくることが見込まれます。また地域のイベントには極力参加し、地域にFMぎんがの名前をPRする場をどんどん増やしてしていきたいと考えています。現在、放送エリア拡大のため実験局の準備も引き続き進めています。

#### ◎中崎局長

今回の番組審議会では番組DONDONブレイクさつま月曜日中の「かごんま弁クイズ」に関して、県外の方に電話をつないで行うコーナーに関してご意見をいただきたいと思います。

○吉見委員

面白いコーナーです。県外の人というより鹿児島の若い世代向けにいいのでは？

○加藤委員

秋田からの参加者が多いですね？

◎中崎局長

主にU S T R E A M配信を視聴してくださってる方に参加のお声かけをしており、以前、秋田のある方に参加していただいたことがありました。これをご自身が行うU S T R E A M配信中で紹介し、秋田県での知名度が上がった経緯があります。そのため一時期秋田県からの参加者が続いたことがありました。

○中間委員

連日知覧のリスナーからのメッセージが紹介されているようですね。FMぎんがの放送電波は知覧まで届くのですか？

◎中崎局長

U S T R E A M配信からのメッセージで、ラジオからの反応ではありません。電波は届いていないものと思われます。

○吉見委員

おばあちゃんの話し手を見つけることはできないですか？

◎中崎局長

地域の高齢者の方が参加する番組『てんがらもんラジオ』に出演中の方に現在出演を打診しており、朝の番組のどこかの曜日を担当していただけるように準備を進めています。

○吉見委員

そういう方がパーソナリティになると言葉だけではなく、風習や出来事、伝統的なことなどもあわせて発信してくれると思います。

○加藤委員

吉見委員の意見の中にもあったようなことが、鹿児島感という形で県外の方に伝わっていくのは大変良い。ただ、普段からこのような、難しい鹿児島弁を出題しているのですか？

◎中崎局長

開始当初はシンプルな言葉を選んでいましたが、コーナーも放送回数40回以上を数えると、どうしてもこのような難しい言葉も選ばざるを得なくなっています。

○加藤委員

鹿児島弁だけでなく、様々な鹿児島らしさが聞かせられたらいいと思います。鹿児島弁は武士の言葉がなまっているような部分があり、そういう背景まで見えるような放送がいいと思います。

○井手委員長

鹿児島弁は地域によって多様性もあるので、そういった部分も含まれていくのがいいのではないのでしょうか？

○下吉委員

「けっぱしった」という言葉を開聞地方の方に言っても伝わらなかったことがある。確かに同じ県内でも通じない言葉があります。

○吉見委員

穎娃の言葉は、「穎娃語」というユーモアにもなるほど、独特な単語や訛りがある鹿児島弁ですね。

○藤崎委員

このコーナーは若い世代をリスナーとして取り込むために、色んなバリエーションに発展できる可能性を持っていると思います。吉見委員なども出てくると非常に興味を持たれるはずです。

○井手委員長

この番組は、このかごんま弁クイズの担当が毎日司会をしているのですか？

◎中崎局長

月曜日と金曜日の担当です。

○井手委員長

インターネット配信ではなく実際のラジオリスナーの反応はどうですか？

◎中崎局長

まだ目に見える形では現れていません。

◎濱田英作

全く無いわけではないですが限られたリスナーからの反応です。

○加藤委員

USTREAMによるインターネット配信を、県外にいる鹿児島出身の方が聞いているケースはありますか？

○井手委員長

私の鹿児島出身で東京在住の知り合いからも、時折聴いていると言う声をいただきます。ところで、反応がある特定のリスナーはどのような方ですか？

◎濱田英作

鹿児島市在住の50代男性の方です。

◎中崎局長

そのリスナーの方は、本日もスタジオに来院して下さるなど、時折スタジオにもいらっしゃいます。

○井手委員長

「スタジオに遊びに来てください」という告知は積極的に行っていますか？

◎中崎局長

行っている番組と行っていない番組とがあります。

○井手委員長

行っていない番組でもスタジオ来訪を受け付けていますか？

◎中崎局長

各番組受け付けています。

○井手委員長

そういうファンがいると、FMぎんがの広報マンのように口コミで拡げて下さることも考えられるので、大切にしなければならないですね。

◎中崎局長

そのように考えます。反応をされないリスナーの中にどういった方々がいるかというリサーチをする方法はまだ確立されていないことが、ひとつ課題であると考えてい

ます。

○加藤委員

やはりFMぎんがとしても認知度をもっと向上するため、外に出て行くべきでしょう。西伊敷地域でもやはり高齢者が多く、ターゲットを高齢者に合わせるような放送にするべきで、先ほどのコーナーにしても、「その言葉は違うよ」などといった反応がリスナーから返って来るぐらいまで持っていけたらいいと感じます。まだ放送を聴いてもらえていない人や世代を取り込むことを考えたとき、こういう鹿児島弁を全面に押し出した放送は他の局には無いのだから、これは武器になると考えます。

○吉見委員

パーソナリティ自身がリスナーに対して、「私が間違ったことを言うようなら、どうぞ指導ください。」と投げかけるような積極さも必要かもしれないですね。

◎中崎局長

次に同番組火曜日中のコーナー「ゆったり！まったり！市内お風呂巡りの旅」について同様にご意見をお願いします。

○井手委員長

銭湯をレポートしてくれている方は、どういった方ですか？またコーナーの月ベースの頻度は？

◎中崎局長

レポーターは、銭湯団体の事務局にいらっしゃる方です。コーナーは毎週行っております。

○加藤委員

ーリスナー目線に立ったとき、スタジオから放送するスタイルではなく、実際の銭湯からのレポートが聞ける作り方が面白いように感じます。

◎濱田英作

現状ではコーナーの制作方法や番組の性格など問題が多く、まだ実行できる状況にありません。

○井手委員長

現場での実況や収録が難しくてもお風呂の雰囲気を出すような効果音使用するなど、擬似的にそういう状況を作り出すことができるのではないですか？

◎濱田英作

そういう作り込みは十分可能です。

○藤崎委員

以前私が訪れた温泉銭湯では、ある時間になると某高校の寮生が一気に訪れ、他の入浴客に「こんにちは」と挨拶をするような特徴的な光景が見られました。そういった地域性を発信するのも面白いのでは？

○井手委員長

このコーナーは番組中のどのくらいのタイミングで放送されていますか？

◎濱田英作

オープニングコーナー直後、13:15に開始されるコーナーです。

○吉見委員

このコーナーの題材はとても良いので、ぜひいい知恵をだして力を注いでほしい。

私の知人達は鹿児島に仕事で赴任すると、ほとんどの方が温泉銭湯に通うようになっていました。それを考えると、県外から鹿児島に来ているリスナーにもとても有用な情報になるで、露天風呂、またちょっとした食事が楽しめる店舗があるかといった情報を入れることが鍵だと思います。

○井手委員長

この情報は、独立した番組としても成立すると思います。

○中間委員

これまで取材をした温泉銭湯に対してオンエアになった完成音源を持っていくようなことはおこなっていないのですか？全ての取材先が放送を聴いてくれているのですが、そうでない銭湯には実際の音源を差し上げることによって「こういう風に紹介されたのか！」と実感を持ってもらえ、今後の聴取率アップにつながっていくのではないのでしょうか？

◎中崎局長

今後の課題だと思います。

◎濱田英作

ちなみに実験的に放送音源を差し上げた温泉銭湯さんの反応は非常によかったです。

○井手委員長

このコーナーが一通り市内の温泉銭湯を紹介し終わったのであれば、1回目の放送音源を持って行った上で、2巡目のスポンサーになっていただくような企画・営業の方法があるのでは？

◎中崎取締役

そのほか何かございませんでしょうか？

○藤崎委員

鹿児島弁については、必要であれば薩摩狂句の先生など鹿児島弁の専門家を紹介することもできます。必要であればお声かけください。

◎中崎局長

本日は取り扱いませんでしたが、今回紹介したコーナーのほかに同じく火曜日に予防医学をテーマにしたコーナー「予防医学を何かやろう!」、また水曜日に、子育て支援のコーナーである「マンマの時間」などがあります。

○井手委員長

災害に関する対応状況はどのようになっていますか？

◎中崎局長

天気予報、気象台が発表する防災情報は随時チェックして番組中に挿入する体制をとっています。ハード面では非常電源を準備し、万一停電状態になっても操作をする担当がいれば放送を継続できます。

◎中崎取締役

今月9月末を目途にスタジオ設備を新たに導入し、災害対策のみならず通常放送時もハード面の利便性をより良くして行きます。

◎中崎局長

ただ、パーソナリティ及びスタッフに演奏所・送信所のある鹿児島市西伊敷地区在住のものがおらず、様々なケースに対する迅速な対応を考えたとき、不安が残る部分もまだ残っています。

◎上酔尾佳大

8月31日午後10時過ぎに、東北から沖縄までの太平洋側沿岸に津波注意報が発令された件に関して、当日は情報が発令されてから実際の放送まで15分の時間を要しました。これは、発令を認識してから情報の整理に時間がかかったもので、ここにもまだ

改善の余地があると考えています。

○井手委員長

それは内部の放送体制の問題ですか、それとも発令を受信するシステムの問題ですか？

◎上醉尾佳大

システムの問題というよりも、放送体制として改善の余地があったと考えています。

#### 7. その他の連絡事項

最後に、次回番組審議会を平成24年10月10日 18:30よりFMぎんがにて開催することを確認し、今回の番組審議会を閉会した。

#### 8. 審議機関の答申又は意見の概要の公表

- ① 自社放送 : 平成24年9月27日午前9時からの音楽番組の前半に特番で放送
- ② 書面の備置き : 平成24年9月27日から、当該事項を記載した書面(議事録)を事務所へ備置き
- ③ インターネット : 平成24年9月27日より当社インターネットのホームページに転載

以上

議事録作成 濱田英作